

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和6年11月28日時点

開催日時	開催形式（場所）	名称
11月30日(土) 13:00～16:50	オンライン	公開シンポジウム「総合的病虫害・雑草管理の課題と望まれる新技術」
11月30日(土) 13:30～16:35	ハイブリッド (東北大学)	東北地区会議学術講演会「東北地方の持続可能な食料生産のこれから～畜産業、水産業」
11月30日(土) 13:30～17:10	ハイブリッド (高知工科大学)	中国・四国地区会議学術講演会「社会的課題と学術統合による研究と教育」
11月30日(土) 15:30～17:30	オンライン	公開シンポジウム「動物の安楽死を考える」
12月6日(金) 13:00～16:30	ハイブリッド (岐阜大学)	中部地区会議学術講演会「性はどうやって決まる？」
12月10日(火) 10:00～17:30	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「第14回計算力学シンポジウム」
12月15日(日) 13:30～16:00	オンライン	公開シンポジウム「『学びの多様化学校』の学校づくりに学ぶ」
12月22日(日) 13:00～15:00	名古屋大学	公開シンポジウム「ライフコース・多職種の関わる生活習慣病予防」
12月22日(日) 13:30～17:00	オンライン	公開シンポジウム「第6次男女共同参画基本計画に向けた日本学術会議の期待」

※諸般の事情により、内容等に変更が生じる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。

令和6年度日本学術会議公開シンポジウム

「総合的病害虫・雑草管理の 課題と望まれる新技術」

令和6年11月30日(土)

13:00~16:50

Zoomによるオンライン配信

参加 無料(事前申込制)

事前参加申し込み締切：11月23日(土)

メールで下記申し込み先までお申し込みください
締切後にZoomのURLをお知らせいたします

主 催

日本学術会議植物保護科学分科会

日本植物保護科学連合（日本植物病理学会、

日本応用動物昆虫学会、日本農薬学会、

日本雑草学会、植物化学調節学会）

13:00~13:10 開会挨拶

渡辺 京子（日本学術会議第二部会員・玉川大学教授・植物保護科学分科会委員長）

13:10~13:45 超音波を用いた新しい物理的害虫防除技術 -コウモリから逃げる蛾-

中野 亮（農研機構植物防疫研究部門上級研究員）

座長：日本 典秀（京都大学農学研究科教授）

13:45~14:20 ジャガイモシストセンチュウの防除に向けて -孵化促進物質の単離構造決定と
生合成研究-

水谷 正治（神戸大学大学院農学研究科教授）

座長：中野雄司（京都大学大学院生命科学研究科教授）

14:20~14:55 農業生産環境に広く分布するマイコウイルスの性状解析とその活用に関する構想

森山 裕充（東京農工大学大学院農学研究院教授）

座長：松田 一彦（日本学術会議 連携会員・近畿大学農学部教授）

15:10~15:45 ヘソディムに基づく土壌病害の予防的管理の重要性と今後の展望

吉田 重信（日本学術会議連携会員・農研機構植物防疫研究部門グループ長）

座長：染谷 信孝（農研機構植物防疫研究部門上級研究員）

15:45~16:20 雑草の有害化を回避するためのデータ活用可能性とその展望

松橋 彩衣子（農研機構植物防疫研究部門主任研究員）

座長：西田 智子（日本学術会議連携会員・農研機構理事）

16:20~16:50 総合討論

松本 宏（日本学術会議連携会員・筑波大学名誉教授）

申し込みおよび問い合わせ先： 松本 宏 E-mail: hmatsu@biol.tsukuba.ac.jp

東北地方の持続可能な食料生産のこれから 畜産業、水産業

日本学術会議東北地区会議公開学術講演会

我が国の食料自給率は、現在38%前後で推移し、食料の約60%を輸入に依存しています。昨今の世界的食料需要の増大、気候変動などの食料安全保障リスクを背景に、本年、食料・農業・農村基本法が25年ぶりに見直されました。水産業では、2018年に70年ぶりに漁業法が改正、2022年に「水産基本計画」が新たに閣議決定されました。東北地方が生み出す農業産出額は日本全体の約15%、漁業産出額は約12%を占め、東北6県の食料自給率は約70〜200%を維持しています。

本講演会では、日本の食料安定供給を支える東北地方で、主として動物性タンパク源を供給する畜産業と水産業に焦点をあて、現状と課題、産業を支える学術研究、地域企業の取組などを紹介し、食料安全保障リスクに対し盤石な東北地方の持続可能な食料生産の在り方などについて、参加者の皆様と共有いたします。

2024年
11月30日(土)
13:30~16:35

参加申込はこちら

【締切】2024年

11月24日(日)

対面・オンライン参加共通

<https://forms.gle/Y4ADPm5WBcu1E9ocA>

参加費
無料

事前
登録制



次第

1 開会挨拶

日比谷 潤子 (日本学術会議副会長)

2 講演

I 地球規模の人口爆増・食料危機における畜産の必要性と役割

眞鍋 昇 (大阪国際大学 学長補佐/人間科学部教授)

II 人工知能を活用した畜産現場における飼養管理技術の開発

市浦 茂 (山形大学アグリフードシステム先端研究センター助教)

III 蔵王和牛 私たちが信じる「本当のおいしい」を鮮度そのままに届けるために — 高橋畜産グループの挑戦 —

高橋 勝幸 (株式会社蔵王ファーム 代表取締役)

IV 変化が続く水産業の現状と課題

大越 和加 (日本学術会議第二部会員、東北大学大学院農学専攻教授)

V 磯焼けの解決がもたらす脱炭素と持続可能な地域の構築をめざして

西川 正純 (日本学術会議第二部会員、宮城大学理事/副学長/食産業学群教授)

VI 持続可能な水産資源の維持確保に向けていま取り組みたいこと

土合 和樹 (株式会社フィッシャーマン・ジャパン・マーケティング取締役 COO)

3 総合討論

ファシリテーター

北川 尚美 (日本学術会議第三部会員、
東北大学大学院工学研究科研究科長補佐/教授)

パネリスト

眞鍋 昇/市浦 茂/高橋 勝幸/大越 和加/西川 正純/土合 和樹

4 閉会挨拶

五十嵐 和彦 (日本学術会議第二部会員、
日本学術会議東北地区会議代表幹事、
東北大学大学院医学系研究科教授)

司会進行

木村 直子 (日本学術会議第二部会員、
山形大学大学院農学専攻教授)

【会場図】



東北大学片平キャンパス片平北門会館2階エスパス
(宮城県仙台市青葉区片平2-1-1) ※参加には事前登録が必要です。

主催：日本学術会議東北地区会議

共催：国立大学法人東北大学

後援：公益財団法人日本学術協力財団、国立大学法人山形大学、公立大学法人宮城大学、大阪国際大学

お問い合わせ：東北大学研究推進課 TEL022-217-4840

「社会的課題と 学術統合による 研究と教育」

社会経済の複雑化や新技術の進展により、将来の不確実性が増大しています。このため、社会的課題は単独の学問では解決できず、学際的なアプローチが求められています。国際学術会議も、科学と政策や実践を結びつける学際的な科学の重要性を10年以上にわたり強調しています。この学際的なアプローチは、大学の教育や研究にも影響を与えており、より実行可能な知識と解決策を生み出すことが期待されています。本学術講演会は、こうした背景の中で大学の教育と研究の在り方を探求します。

参加費
無料

令和6年**11月30日(土)** 13:30 ~ 17:10
どなたでもご参加いただけます

場 所

高知工科大学永国寺キャンパスA213教室

(高知県高知市永国寺町2番22号)(対面・オンラインによるハイブリッド開催)

※会場には駐車場がありませんので、近隣の有料駐車場もしくは公共交通機関をご利用ください。

会場定員

100名 参加希望の方は11月22日(金)までに下記URLまたはQRコードより、事前申し込みをお願いいたします。 <https://forms.office.com/r/W6dUHV571e>



プログラム

- 13:30 ~ 13:45 (1)開会挨拶
三枝 信子 (日本学術会議副会長、日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人国立環境研究所地球システム領域領域長)
蝶野 成臣 (高知工科大学長)
- 13:45 ~ 13:50 (2)趣旨説明
那須 清吾 (日本学術会議連携会員、中国・四国地区会議運営協議会委員、高知工科大学経済・マネジメント学群教授)
- 13:50 ~ 14:20 (3)講演
「多様化する社会的課題に資する
高等教育機関へ向けて」
岩田 誠 (日本学術会議連携会員、高知工科大学副学長・情報学群教授)
- 14:20 ~ 14:50 「知識創造と社会デザイン：
大学院リーグが目指す変革とは」
永井由佳里 (日本学術会議第三部会員、北陸先端科学技術大学院大学理事・副学長、高知大学客員教授・非常勤講師)
- 14:50 ~ 15:20 「理論と実践の隙間を埋める
PBL教育の試み」
土屋 哲 (日本学術会議連携会員、高知工科大学経済・マネジメント学群教授)

- 15:20 ~ 15:30 休憩
- 15:30 ~ 16:00 「Advanced Technology と看護」
大坂 京子 (高知大学医学部看護学科長・教育研究部医療学系看護学部門教授)
- 16:00 ~ 16:30 「学術統合による課題構造化と
DX システム研究」
那須 清吾 (日本学術会議連携会員、中国・四国地区会議運営協議会委員、高知工科大学経済・マネジメント学群教授)
- 16:30 ~ 17:00 「高知から世界へ！
ヘルスケアイノベーションの挑戦」
菅沼 成文 (高知大学副学長・教育研究部医療学系長・MEDIセンター長・連携医学部門教授)
- 17:00 ~ 17:10 (4)閉会挨拶
数田ひかる (日本学術会議第三部会員、中国・四国地区会議代表幹事、広島大学大学院先進理工系科学研究科教授)

お問い合わせ 高知工科大学研究支援課 学術講演会担当

Email gakuren@mlsv.kochi-tech.ac.jp

Tel 0887-57-2025

主 催 日本学術会議中国・四国地区会議、高知県公立大学法人高知工科大学 / 後 援 国立大学法人高知大学

日本学術会議(獣医学分科会 食の安全分科会)/日本法獣医学会

日本法獣医学会URL: <https://www.jvfm.net/>
e-mail: sci-tox@vetmed.hokudai.ac.jp



登録はこちら(無料)
(参加URLが自動送信されます)

QRを読むか、クリックすると
登録ページに飛びます

11/30
15:30-17:30

日時 2024年11月30日 15:30-17:30
場所 Zoomウェビナー

座長 鈴木良(東京都保健医療局 動物愛護相談センター多摩支所)

15:30 開会の挨拶
堀 正敏(東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学研究室教授)

15:35「殺処分ゼロの弊害」
田中 亜紀(日本獣医生命科学大学特任教授)

15:55「動物医療過疎地における動物の安楽死」

長嶺 隆(NPO法人どうぶつたちの病院 沖縄 理事長)

16:15「一頭、一羽の命の重さー産業動物の安楽死ー」
戸上 由香梨(ドイツ連邦共和国バイエルン州上バイエルン行政地区獣医師、ミュンヘン大学博士課程)

16:35「野生動物管理のための安楽死」
岸本 真弓(株式会社 野生動物保護管理事務所シニアマネージャー、日本野生動物医学会 理事)

16:55 総合討論
<モデレーター>

高橋 真吾(東京都保健医療局健康安全部・健康安全調整担当課長)

内田 和幸(東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻教授)

17:25 閉会の挨拶
内田 和幸(東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻教授)



動物の安楽死を考える

日本学術会議(獣医学分科会 食の安全分科会)/日本法獣医学会

日本法獣医学会URL:<https://www.jvfm.net/>

e-mail: sci-tox@vetmed.hokudai.ac.jp



登録はこちら(無料)
(参加URLが自動送信されます)

QRを読むか、クリックすると
登録ページに飛びます

11/30
15:30-17:30

日時 2024年11月30日 15:30-17:30
場所 Zoomウェビナー

座長 鈴木良(東京都 保健医療局 動物愛護相談センター多摩支所)

15:30 開会の挨拶

堀 正敏(東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学研究室教授)

15:35「殺処分ゼロの弊害」

田中 亜紀(日本獣医生命科学大学特任教授)

15:55「動物医療過疎地における動物の安楽死」

長嶺 隆(NPO法人どうぶつたちの病院 沖縄 理事長)

16:15「一頭、一羽の命の重さー産業動物の安楽死ー」

戸上 由香梨(ドイツ連邦共和国バイエルン州上バイエルン行政地区獣医師、ミュンヘン大学博士課程)

16:35「野生動物管理のための安楽死」

岸本 真弓(株式会社 野生動物保護管理事務所シニアマネージャー、日本野生動物医学会 理事)

16:55 総合討論

<モデレーター>

高橋 真吾(東京都保健医療局健康安全部・健康安全調整担当課長)

内田 和幸(東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻教授)

17:25 閉会の挨拶

内田 和幸(東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻教授)

動物の安楽死を考える



性はどようやって決まる？

近年、ダイバーシティ、LGBTQ+など、性への関心が高まっている。これまでの議論では、人間社会のみが対象であったり、生物学的な研究報告であったりと、両者をつなぐ議論はあまり見られていない。そこで本講演会では、性の決定要因を文理一体となって、様々な視点から考えることとしたい。

はじめに生物学的な知見から、どうぶつの性決定遺伝子SRYについて、次いで甲殻類の視点から、雌雄同体カブトエビについて解説する。そして人間に視点を移し、性同一性障害から見た人の性決定について説明後、トランスジェンダーのスポーツ参加やフェミニズムとクィア、トランスライツ運動の発展を理論と政治運動の視点から解説する。

「性決定」を様々な視点から、包括的に考えようとするこの企画は、性決定の理解を深め、今後の多様な社会づくりへの意識改革に貢献できると考える。今回の講演会では、この主題に対する研究を理系・文系などの視点で捉え、学術的理解を深め今後の展望について議論したい。

ハイブリッド開催

令和6年
12/6 金
13:00▶16:30

OKB岐阜大学プラザ 岐阜県岐阜市柳戸1-1
<https://toic.aip.thers.ac.jp/gifu/>

参加無料 どなたでも参加できます

参加希望の方は、令和6年11月29日(金)までに下記URLまたはQRコードより事前に申込みをお願いいたします。定員(現地50名、ウェビナー 500名)になり次第、事前申込みの受付は終了いたします。

<https://forms.office.com/r/1wH9rEEYwN>



13:00▶13:20 ● 開会挨拶

岐阜大学長 吉田 和弘

日本学術会議副会長 日比谷 潤子(日本学術会議第一部会員、国際基督教大学名誉教授)

13:20▶13:30 ● 主催者挨拶

日本学術会議中部地区会議代表幹事 高田 広章(日本学術会議第三部会員、名古屋大学未来社会創造機構教授)

13:30▶13:40 ● 科学者との懇談会活動報告

中部地区科学者懇談会幹事長 松田 正久(愛知教育大学名誉教授、元学長)

日本学術会議第192回総会を傍聴して

中部地区科学者懇談会岐阜県幹事 山本 公徳(岐阜大学地域科学部教授)

13:40▶16:30 ● どうぶつの生物学的な性 一性決定遺伝子SRYについてー

宮脇 慎吾(岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科准教授)

オスらしさメスらしさを決めるのは何か ー雌雄同体カブトエビ

長縄 秀俊(岐阜大学応用生物科学部特別協力研究員)

性同一性障害から見た人の性決定

深尾 琢(岐阜大学保健管理センター教授)

性の多様性とスポーツ

松下 千雅子(名古屋大学人文学研究科教授)

質疑・まとめ

16:30 ● 閉会挨拶

司会 日本学術会議中部地区会議運営協議会委員 大藪 千穂(日本学術会議連携会員、岐阜大学副学長、教育学部教授)

お問い合わせ

日本学術会議中部地区会議事務局(名古屋大学研究協力部研究企画課内)

TEL: 052-789-2039 FAX: 052-789-2041

岐阜大学

TEL: 058-293-3140 FAX: 058-293-3209

主催 日本学術会議中部地区会議

共催 岐阜大学

後援 公益財団法人日本学術協力財団

<https://www.scj.go.jp/ja/area/index.html>

日本学術会議中部地区会議学術講演会

講師プロフィール



宮脇 慎吾

岐阜大学応用生物科学部
共同獣医学科
同 高等研究院One Medicine
トランスレーショナル
リサーチセンター 准教授

どうぶつの生物学的な性 一性決定遺伝子SRYについてー

私たち人間を含むどうぶつ（ほ乳類）は、オスとメスの性がある。「どのように性が決まるのか？」というテーマは古代ギリシア時代より議論されてきた。現在では、ほ乳類の性は性染色体の組み合わせで決まることが知られている。XX型はメスになり、XY型はオスになる。さらに、1991年には、Y染色体に存在するSRYが性決定遺伝子であると示された。それ以降、ジェネティクスやエピジェネティクスの発展により、生物学的な性の理解が進んでいる。本講演では、「どのように性が決まるのか？」に関して、これまでに解明された生物学的な知見を紹介する。

Profile

専門は獣医学・分子遺伝学・発生学。岐阜大学応用生物科学部獣医学課程を経て、慶應義塾大学大学院医学研究科を修了、博士（医学）。大学院修了後は、北海道大学にてハダカデバネズミの研究に従事し、さらにその後は徳島大学、大阪大学でマウスの性決定の研究に従事し、マウスの真の性決定因子SRY-Tを発見した（Miyawaki et al., Science 2020）。現在は、岐阜大学の共同獣医学科で、様々な動物の性質や病気に関する遺伝的な研究を進めている。



長縄 秀俊

岐阜大学応用生物科学部
特別協力研究員

オスらしさメスらしさを決めるのは何かー雌雄同体カブトエビ

成熟した動物のオスは、メスに出会うと求愛して配偶行動を試みる一方、他のオスに出会うと攻撃を仕掛ける。陸上の池沼や水田などにすむ小型甲殻類のカブトエビには、ふつうオスとメスが存在するが、日本にすみついた外来種の多くは雌雄同体（オスとメスの生殖器官を一個体にもつ）である。人間も含めて哺乳類の染色体の型は、オスがXYで、メスがXX、ということは一般的にもよく知られ、Y染色体上にあるSRYという遺伝子が性を決めている。カブトエビの場合はSRYではなく染色体の数によって性が決定され、細胞ひとつひとつで性が異なる。オスでもメスでもない雌雄同体は間性という第3の性である。オスらしさメスらしさのうち、生殖器官やオスメスそれぞれに特有の体つきを形づくるのが、性ホルモンの合成を促進する遺伝子と受容体の働き、そしてオスの性行動を規定するのは、性ホルモンを介して活性化された脳の神経細胞である。それでは雌雄同体カブトエビはどうなっているのかを、遺伝子・分子レベルで紹介する。本講演はJSPS科研費24H02587の助成を受けた研究に基づくものである。

Profile

専門は環境生物・生態学。京都大学大学院理学研究科生物科学専攻（博士後期課程）を経て岐阜大学大学院連合農学研究科を修了、博士（農学）。学部生時代から30年以上に及びモンゴル～バイカル湖流域、ドナウ川流域、日本国内の水田そのほかで系統分類学、水圏生物相および生物地理学研究、希少種の保全生物学の研究などを行ってきた。世界のカブトエビ研究の第一人者として、高校生と市民科学の醸成を目指している。



深尾 琢

岐阜大学
保健管理センター教授

性同一性障害から見た人の性決定

人の生物学的な男女の性は、動物と同様に遺伝子やホルモンの影響を受けて分かれていく、とされている。それにもかかわらず人の性が動物の性と異なるのは、人が自分はどちらの性に属するのかを自ら言葉にする点にある。「私の性は〇〇である」と相手に伝えて、なおかつ相手から「確かにその通りだ」と返答してもらうことを切に願うのである。精神科に受診する性同一性障害の当事者は、人の性が社会の他の人々に承認されたものでなくてはならないことを、身を挺して私たちに教えてくれている。

Profile

1992年岐阜大学医学部医学科卒。豊川市民病院、（社）岐阜病院、羽島市民病院、岐阜大学医学部等を経て、2022年より現職。専門は性同一性障害、精神療法、精神分析。私が30年以上携わる精神科の診察室は、性同一性障害に限らず、様々な悩みを通して性が重要なテーマとして持ち込まれる場でもある。



松下 千雅子

名古屋大学
人文学研究科教授

性の多様性とスポーツ

近年、多様な性のあり方に関心が集まり、生まれた時の性別とは異なる性別を自認するトランスジェンダーや、男性・女性のどちらにもはっきりと当てはまらないノンバイナリーの人々を、どのように社会に包摂していくかが喫緊の課題となっている。長年、男性部門・女性部門に分かれて行われてきたスポーツ競技でも、2000年代以降、多様な性アイデンティティを持つアスリートのためのガイドラインが策定されてきた。しかし、トランス女性や性分化疾患を持つ女性を、女性部門に無理なく包摂するための方法についての議論は、いまだに最終的な結論には至っておらず、ガイドラインもこれまでに何度も修正されている。本講演会では、トランス女性や性分化疾患を抱える女性のスポーツ大会への参加がどのように規制されてきたのかを、いくつかの事例をもとに簡単に紹介する。さらに、大学生アスリートを対象に行った社会調査に基づく研究結果を紹介し、アスリートたちの間で多様な性を持つ人々のスポーツ競技への受け入れに影響を与える心理的要因を明らかにする。

Profile

専門は、ジェンダー論、セクシュアリティ論、クィア理論、批評理論。クィア理論を理論的枠組に用いて、ジェンダー・セクシュアリティに関する量的及び質的データを収集し、分析している。現在は、特にセクシュアル・マイノリティのスポーツ参加に関心があり、マイノリティに対する包摂と排除の心理的要因を検討している。

第14回 計算力学シンポジウム

主 催

日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会

共 催

可視化情報学会、CAE懇話会、日本応用数理学会、日本機械学会、日本計算工学会、日本計算数理工学会
日本計算力学連合、日本シミュレーション学会、アジア太平洋計算力学連合、国際計算力学連合

後 援 自動車技術会

開催趣旨 我が国を代表する計算力学関連学会が一堂に会し、各学会を代表する若手研究者が最新の成果を披露します。日本における広い分野の計算力学研究と活用の成果を、まとめて聞くことができる貴重な機会です。さらに、2021年供用開始から4年目になるスーパーコンピュータ「富岳」の成果と今後の計算科学の方向性について、**計算力学分野におけるスーパーコンピュータ「富岳」の成果と今後の計算科学ロードマップ**と題した特別企画を開催し、第一線でご活躍中の研究者による講演と討論を行います。

日 時： 令和6年12月10日（火）10:00～17:30

会 場： 日本学術会議講堂 及び オンライン [webinar](#)（ハイブリッド開催）

申 込： 事前申込不要（直接ご来場いただくか上記リンクよりご参加ください）

参加費： 無料 問合せ先： 14th-cm-symposium-ml@tusml.tus.ac.jp（東京理科大学・岡田裕）

次 第

各講演時間には3分程度の各学会長による講演者紹介と質疑応答を含みます

総合同会：岡田 裕（東京理科大学創域理工学部教授）

10:00-10:10 開会の辞：

坪倉 誠（日本学術会議・連携会員、神戸大学大学院システム情報学研究科教授／国立研究開発法人理化学研究所 計算科学研究センターチームリーダー）

第I部 若手研究者による講演

10:10-10:30 講演1（日本計算力学連合）

石田 駿一（神戸大学大学院工学研究科助教）
「磁性液滴挙動の数値解析」

10:30-10:50 講演2（日本応用数理学会）

大城 泰平（北海道大学化学反応創成研究拠点特任准教授）
「反応速度論シミュレーションに対する速度定数行列縮約法の数理」

10:50-11:10 講演3（日本計算工学会）

山本 剛大（茨城大学 学術研究院応用理工学野講師）
「弾塑性解析へのBlock Newton法の適用」

11:10-11:30 講演4（日本機械学会計算力学部門）

森田 直樹（筑波大学システム情報系助教）
「大規模並列構造解析の高度化と複合材料の強度評価への適用」

11:30-11:50 講演5（CAE懇話会）

岡田 明久（株式会社豊田中央研究所 数理工学研究領域）
「量子アニーリングを活用した逐次最適化手法の製品設計への適用」

11:50-13:30 昼休み

13:30-13:50 講演6（日本計算数理工学会）

杉田 直広（東京科学大学総合研究院助教）
「超音波診断用造影剤の低次元力学モデルと非線形解析」

13:50-14:10 講演7（可視化情報学会）

中島 卓司（広島大学 大学院先進理工系科学研究科准教授）
「意匠空間を考慮した自動車の多目的空力設計探査技術の構築」

14:10-14:30 講演8（日本シミュレーション学会）

藤田 和広（埼玉工業大学大学院工学研究科准教授）
「電磁界の支配方程式に基づく深層学習と電磁相互作用問題への応用」

14:30-14:40 休憩

第II部 特別企画「計算力学分野におけるスーパーコンピュータ「富岳」の成果と今後の計算科学ロードマップ」

モデレータ 吉村 忍（東京大学大学院新領域創成科学研究科特任教授）

14:40-15:10 特別講演1 伊井 仁志（東京科学大学工学院教授）

「「富岳」を用いた脳循環のin silicoモデリングとデジタルツイン構築に向けた取り組みと展望」

15:10-15:40 特別講演2 加藤 千幸（日本大学理工学部理工学研究所上席研究員）

「産業界における「富岳」の利用成果と今後の展望」

15:40-16:10 特別講演3 藤堂 真治（東京大学大学院理学系研究科教授）

「ポスト「富岳」に向けた計算科学ロードマップ」

16:15-17:25 総合討論

パネリスト：第II部特別講演者3名および、大島 まり（日本学術会議・連携会員、東京大学大学院情報学環教授）、大出 真知子（日本学術会議・連携会員、国立研究開発法人物質・材料研究機構構造材料研究センター計算構造材料グループ主任研究員）

17:25-17:30 閉会の辞

越塚 誠一（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

主催：日本学術会議心理学・教育学委員会 不登校現象と学校づくり分科会

共催：日本教育学会近畿地区

京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センターE.FORUM



オンライン開催

(参加費無料)

定員：500名

第2回 公開シンポジウム

「学びの多様化学校」の学校づくりに学ぶ

2024年

12月15日(日)

13:30~16:00



QRコードよりお申込みください。
お申込締切：12月9日(月)
但し、定員になり次第、締め切ります。



文部科学省が令和6年(2024)10月に公表した「令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」では、不登校児童生徒数が過去最多を記録したことが示されました。

子どもたちの十全な発達と学力を保障するという観点からは、教育機会確保法(平成28年(2016年)制定)で示された通り、学校以外の居場所を確保するといった支援の充実も重要です。一方で、学校の在り方を問い直し、「学校」という概念そのものを捉え直すことも喫緊の課題です。

そこで「不登校現象と学校づくり分科会」では、不登校をめぐる様々な分野での研究成果を集約するとともに、学校の在り方を問い直すことで包摂性を高めているような事例を検討します。これらを踏まえつつ、今後、求められる「学校」の概念、ならびに学校づくりの方向性を考究します。

本シンポジウムでは、「学びの多様化学校」において、どのような工夫がなされているのかをご紹介します。今後、求められる学校の在り方について検討します。

司会：山名 淳(日本学術会議第一部連携会員/東京大学大学院教育学研究科教授)

小柳 和喜雄(日本教育学会近畿地区理事/関西大学総合情報学部教授)

13:30 開会挨拶・趣旨説明

西岡 加名恵(日本学術会議第一部会員/一般社団法人日本教育学会近畿地区理事/
京都大学大学院教育学研究科教授・教育実践コラボレーション・センター長)

13:35 報告1 八王子市立高尾山学園小学部・中学部の取り組み

黒沢 正明(八王子市立高尾山学園小学部・中学校校長)

14:00 報告2 岐阜市立草潤中学校の取り組み

鷲見 佐知(岐阜市立草潤中学校校長)

14:25 報告3 大和郡山市立郡山北小学校・郡山中学校分教室「ASU」の取り組み

西尾 真理(大和郡山市立郡山北小学校・郡山中学校分教室「ASU」教諭)

14:50 休憩

15:00 質疑応答・全体討論

指定討論：伊藤 美奈子(日本学術会議連携会員(特任)/奈良女子大学大学院生活環境科学系教授)
酒井 朗(日本学術会議連携会員/上智大学総合人間科学部教育学科教授)

15:55 総括・閉会挨拶

勝野 正章(日本学術会議第一部会員/東京大学大学院教育学研究科教授)

16:00 閉会

京都大学大学院教育学研究科
教育実践コラボレーション・センターE.FORUM 事務局
e-forum@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

市民公開シンポジウム

ライフコース・多職種の関わる生活習慣病予防

日時：2024年12月22日（日）11：10-13：10

会場：名古屋大学鶴舞キャンパス 基礎研究棟 4F 第4講義室

参加費：無料（どなたでも参加できます）

オンラインでご視聴される場合は右のQRコードより
事前登録をお願いします。

登録後視聴に関するメールが届きます。



座長

野出孝一（佐賀大学医学部）、池田彩子（名古屋学芸大学 管理栄養学部）

プログラム（講演・総合討論）

1. 予防・健康づくりのヘルスケア社会実装基盤整備：AMEDの取り組み
中山 健夫（京都大学大学院医学研究科）
2. ライフコースの観点からみた我が国の健診・検診プログラム
山岸 良匡（順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学）
3. 未来を築く：子どもの健康を支える生活習慣の探求
和田 恵子（岐阜大学大学院医学系研究科 疫学・予防医学）



第9回 日本糖尿病・生活習慣病ヒューマンデータ学会 年次学術集会 大会事務局
名古屋大学大学院医学系研究科国際保健医療学・公衆衛生学
〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65 e-mail: intl-h@med.nagoya-u.ac.jp
ホームページ: <https://sites.google.com/view/jhsd9/citizen>



日本学術会議公開シンポジウム

第6次男女共同参画基本計画に向けた日本学術会議の期待

オンライン開催 参加費無料(定員500名) 要事前登録

2025年度(令和7年度)に第6次男女共同参画基本計画が策定される予定です。日本学術会議は、従来も第4次、第5次男女共同参画基本計画に向けた提言を発出してきています。本公開シンポジウムでは、日本社会のジェンダー・エクイティ推進のために、第6次男女共同参画基本計画において取り上げるべき重大問題について、広い関係者で情報を共有し、提言作成につながるような議論を行います。

日時:令和6年(2024年) 12月22日(日)13:30 ~ 17:00

13:30~13:35 開催挨拶 高橋裕子

(日本学術会議第一部会員、ジェンダー・エクイティ分科会委員長、津田塾大学学長)

13:35~13:40 来賓挨拶

内閣府男女共同参画局 岡田恵子局長

13:40~14:10 基調講演「男女共同参画への政策構築に向けた日本学術会議の役割とは? : 第6次男女共同参画基本計画に向けて」

白波瀬佐和子(日本学術会議第一部会員、社会学委員会ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会委員長、東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授)

14:10~14:40 講演1「STEM分野の女性教員、女子学生・院生増加のための施策とその課題」

玉田 薫(日本学術会議第三部会員、第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会委員長、九州大学主幹教授・副学長)

休憩10分

14:50~15:20 講演2「性差医療と医学分野のジェンダー・エクイティ」

名越澄子(日本学術会議連携会員、埼玉医科大学総合医療センター消化器・肝臓内科教授)

15:20~15:50 講演3「包括的反差別法の定義と意義——性的複合差別・性的少数者差別の解消のために」

木村草太(日本学術会議連携会員、ジェンダー・エクイティ分科会包括的反差別法小分科会委員長、東京都立大学政治学研究科・法学部教授)

休憩10分

16:00~16:55 会場との対話・全体総括

(ファシリテーター)

三成美保(日本学術会議連携会員、追手門学院大学教授・奈良女子大学名誉教授)

島岡まな(日本学術会議第一部会員、ジェンダー・エクイティ分科会第6次男女共同参画基本計画小分科会委員長、大阪大学大学院法学研究科教授・副学長)

16:55~17:00 閉会挨拶

森 初果(日本学術会議第三部会員、東京大学物性研究所教授)

参加登録はこちら

参加申し込み:事前に下記URLあるいは右記QRコードより、12/19(木)までにご登録下さい。但し、定員になり次第、締め切ります。

<https://forms.gle/5sKABR7wS38772Mk9>

主催:日本学術会議科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会、第一部総合ジェンダー分科会、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、史学委員会ジェンダー史学の知見と方法の社会実装分科会、法学委員会ジェンダー法分科会

問い合わせ先:島岡まな mana.s.law@osaka-u.ac.jp



12/19(木)〆切